

2019 年度第 4 回執行理事会議事録

期日：2019 年 10 月 26 日（土）13:00～17:00

場所：学会事務局

出席者：松田会長 佐々木副会長 平田副会長 齋藤常務 安藤 緒方 西 坂口 小宮 磯崎 ウォリス 岡田 大藤 田村

欠席者（委任状提出あり，カッコ内は委任者）：星 廣木 中澤 辻森

欠席者（委任状なし）：

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 14 名，委任状 4 名，合計 18 名の出席

I 審議事項

1. 11/30 理事会議案について

- ・2020 年度事業計画骨子（案）

会長より案が提示され，今後検討していくこととした。

2. 11/23 GSSP シンポジウムについて

- ・準備状況の報告，交通アクセス等についての紹介があった。

3. 名誉会員推薦委員会の職階委員の推薦（佐々木）【資料 01】

- ・職階別の委員（官公庁，小中高，会社，大学）のそれぞれについて，候補を列举した。担当理事が打診する。11/30 の理事会で選出する。

4. Island Arc 編集委員会からの提案（理事の投稿義務化について）【資料 02】

- ・ジャーナルの品質および IF 向上のために，学術研究を主とする理事に対して，Island Arc への投稿義務化が提案されたが，まずは投稿を奨励する呼びかけや案内を工夫しながら，IF 向上に向けて進めることとした。理事も積極的に投稿する雰囲気づくりを進める。

5. 地質学雑誌保証書，著作権譲渡等同意書，編集規則，著作物利用規定の英訳版の整備について

- ・日本語版の規則・書式の改定に対応した英訳版の整備が必要となり，編集委員会とウォリス理事が担当して進める。

6. 地質学論集の復刊について

- ・地質学雑誌の出版状況やこれまでの論集発行の実績，論集廃止の経緯などを考慮して審議し，標記提案に対しては，想定される投稿内容が地質学雑誌にふさわしいこと，地質学会における論文投稿には二重基準はないことから，地質学雑誌特集号として提案していただくよう回答する。

7. 理事によるインターネットなどを通じた学会や学会員に対しての不適切な発信行為について

- ・9/23 の第 2 回理事会での菅沼理事からの要請事項について，これまでの地質学会の対応等を考慮し，今後の動向を注視していくことにした。

8. 学術大会講演要旨集の電子化，冊子体の廃止について

- ・行事委員会から，現在利用している演題登録受付システム（Confit）のフルサービス（演題登録・プログラム編成・要旨 WEB 公開）利用によって冊子体を廃止する提案があり，賛否を含めいくつかの意見が出た。

(システムのフルサービス利用によるメリット)

- ▶ 行事委員会 (プログラム編成作業)・事務局作業・委員会開催交通費の軽減が見込まれる.
- ▶ 会期前に要旨が Web 上で閲覧・ダウンロード可能になる.
- ▶ 冊子体の編集印刷作業が無くなると講演申し込み締め切りを少し遅らせることが可能.

(その他の意見)

- ▶ 冊子体を廃止しても, システム利用料が増加するため経費節減 (参加費値下) にはならない.
- ▶ 冊子体希望者への対応が必要. オンデマンド印刷して希望者が冊子体を購入する場合, 購入者の負担が大きい.
- ▶ 試行期間を設けて, 来年度は冊子体を作成するが, 学会 HP 上で要旨 pdf をダウンロードできるようにしてはどうか.
- ▶ 行事委員会の作業を手伝うアルバイトを依頼して, 作業負担を軽減し, 冊子体を維持した方がよい. web に依存しない. Web の維持費や更新費増を避ける.

上記の意見もふまえ, メリット・デメリットについてさらに検討し, 11/30 の理事会に具体的に提案する. 来年 1-2 月に原案を会員に紹介・意見聴取したうえで, 来年 4 月の理事会で決定する.

9. 「古生物図鑑」(宝島社) 監修費について

西理事より, 依頼・編集・作業の経緯の説明の後, 出版社からの監修費は個々の監修協力者に作業量に応じて分配することを承認した. 10 月末に校了の予定.

10. geo-Flash のマスコミ等への配信について, 地質学の普及に関わると判断される場合は, 認めることとする. その場合は配信先の情報を確認する. 文部科学省省記者会に対しては配信希望を募る.

II 報告事項

1. 全体的報告

- 1) 9 月 10 日付にて 2018 年度代議員および役員選挙の告示を行い, 10 月 11 日 (金) より 11 月 5 日 (月) まで立候補の受付を行う. ニュース誌 9 月号とホームページに, 実施要領とスケジュールが掲載されている.
- 2) 各賞選考委員会 (委員長 亀尾浩司) は, 2020 年度各賞候補者募集を開始した (12 月 2 日 (月) 締切).
- 3) 宝島社より, 出版予定の古生物図鑑の監修依頼があり承諾した. 西理事が担当.

2. 運営財政部会: 総務委員会 (緒方・西)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

- 1) 地学団体研究会より「高レベル放射性廃棄物の処分政策を再検討し, 原子力政策の抜本的見直しを求める」声明文が届いた (9/10 付け) 【資料回覧】
- 2) 日本技術者教育認定機構 (JABEE) より創立 20 周年記念シンポ, 懇親会 (11/26, 建築会館ホール) の招待があった. 佐々木副会長および天野理事 (地質技術者教育委員会委員長) が出席する.
- 3) 三浦半島活断層調査会: 「深海から生まれた城ヶ島」観察会 (10/6 実施, 学会後援) の実施報告が

あった（参加者 14 名+スタッフ 7 名）。

- 4) 新潟大学旭町学術資料展示館サテライトミュージアム企画展示「アンモナイト展」（7/20-8/31 開催：地質学会後援）の事業実施報告があった（来場者数 898 名，体験イベント 85 名参加）。
- 5) 石油技術協会秋季講演会（10/17 開催：地質学会協賛）より開催報告があった（参加者 91 名）。
- 6) 令和元年度千葉県職員採用選考考査（地質職）の募集（締切 9/19）→学会 HP 掲載済
- 7) 山田科学振興財団 2020 年度研究援助候補募集（締切 2/28, 学会締切 1/30）→ニュース誌, geo-Flash 掲載済
- 8) 第 61 回藤原賞受賞候補者募集（締切 12/13, 学会締切 11/25）→ニュース誌, geo-Flash 掲載済
- 9) 戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究（ERATO）テーマ候補・研究総括候補募集（締切 11/29）→ニュース誌, geo-Flash 掲載済
- 10) 山梨富士山科学研究所国際ワークショップ 2019（11/28, 於都道府県会館（東京））および国際シンポジウム 2019（11/30, 於山梨富士山科学研究所ホール）の開催案内→ニュース誌, HP, geo-Flash 掲載済。
- 11) フォッサマグナミュージアム特別展「日本列島の歴史を変えた石展」（10/5-12/1 開催）への後援」名義使用を承諾した。
- 12) NPO 法人地学オリンピック日本委員会主催，普及講演会「地球をぶらり」（11/9, 於城西大学）への後援名義使用を承諾した。
- 13) 第 29 回環境地質学シンポジウム（11/29-30, 日本大学）の共催を承諾した。
- 14) 原子力総合シンポジウム 2019（12/2, 日本学術会議講堂）への共催を承諾した
- 15) 第 57 回アイソトープ・放射線研究発表会（2020/7/7-7/9, 東大弥生講堂）への後援名義使用を承諾した。
- 16) 消防防災科学技術研究推進制度令和 2 年度研究開発課題の公募（募集期間 10/23-12/23）→ニュース誌 11 月号, geo-Flash 掲載予定。
- 17) 石油資源開発株式会社より役員就任の挨拶（代表取締役社長 藤田昌宏氏）
- 18) 基礎地盤コンサルタンツ株式会社より役員就任の挨拶（代表取締役社長 柳浦良行氏）

<会員>

1. 今月の入会者（2 名）
正会員（2 名）菊地瑛彦，池田拓也
2. 今月の退会者（1 名）
正会員（1 名）岩田大地
3. 今月の逝去者（1 名）
正会員（1 名）齋藤保人（逝去日：2019 年 9 月 10 日）
4. 2019 年 9 月末日会員数
賛助：27 名 名誉：51 正会員：3534（正会員：3354, 正（院割）会員：165, 正（学部割）会員：15） 合計 3612（昨年比 -74）

<会計>

- ・ 山口大会の中止となったプレ巡検については、キャンセルポリシーに沿って、10%の手数料を差し引いて順次返金をしている。
- ・ 「古生物図鑑」(宝島社) 監修費について【→審議事項】

3. 広報部会：広報委員会 (坂口・小宮)

- ・ 地学オリンピック予選参加者配布用冊子「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載依頼(無料)があり、WEB教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知ろう」のチラシを掲載する予定。

4. 学術研究部会 (磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

1) 行事委員会 (岡田)

(1) 山口大会実施報告

- ・ 参加登録者数 約 720 名 (事前参加登録 590, 当日登録 130)
- ・ 地質情報展来場者数 948 名
- ・ プレ巡検 2 コースが台風接近のため中止。会期後の 6 コースについては催行した。

(2) 名古屋大会

- ・ 市民講演会「古生物学入門」2020年9月13日(日)名古屋大学文系カンファレンスホール
- ・ 地質情報展 2020年9月20日(日)~22日(火・祝) 名古屋市科学館
本会場(名古屋大)の申請は2020年1月になるため、事前に会場を確保した。

2) 国際交流委員会 (ウォリス)

- ・ 大韓(韓国)地質学会の招待につき学術大会(済州島)へウォリス理事が出席した(10/23-26)。IGC2024の巡検の準備については情報を収集中である。
- ・ モンゴル地質学会とのMOU更新予定(2019.11より5年間)
MOU締結の時期と手順について、先方と相談し、手続きを進める。地質学会としては本年度中に延長する。

3) JIS, 標準担当 (中澤)

特になし

4) その他

特になし

5. 編集出版部会 (大藤・田村)

1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤)

(1) 編集状況報告 (10月15日現在)。

- ・ 2019年投稿論文：53編 [内訳] 論説 28 (和文 25・英文 3), レター1 (和文), 総説 5 (和文 5), ノート 2 (和文 2), 報告 8 (和文 7・英文 1), 口絵 3 (和文 3), 巡検案内書 6,
- ・] 査読中：36, 受理済み：20 (うち特集号 5)
- ・ 125 卷 10 月号：特集：三次元地質モデル研究の新展開：その 2」(世話人：木村克己, 高野 修, 升本眞二・根本達也) + 通常原稿 3 編 (計 70 頁, 10/24 校了, 11/1 発送予定)
- ・ オープンファイルに地質図等のドロー版 (ベクトルデータ) のデータ掲載希望があり, 会員サー

ビス向上の観点からも、オープンファイルへ細則の改定を検討中。

- ・保証書、著作権譲渡等同意書、編集規則、著作物利用規定の英訳版の更新および新規作成を準備中【→審議事項へ】

2) アイランドアーク編集委員会(田村)

(1) 編集状況報告【資料 03】

(2) その他

- ・2019年投稿論文：53編 [内訳] 論説 28 (和文 25・英文 3), レター1 (和文), 総説 5 (和文 5), Wiley 社編集事務局担当者の交代：11/1 よりパリ・ラリタ氏 (Ms. Lalitha Pari, 使用言語：英語) に変更.
- ・理事の投稿義務化について【→審議事項へ】

3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

6. 社会貢献部会 (星・廣木・中澤)

特になし

7. 地学教育委員会 (委員長 三次)

- ・山口大会の小さなESのつどいのデジタルポスター審査を終了した。優秀賞3件。奨励賞4件。(件数修正しました：澤木)

8. 地質技術者教育委員会 (佐々木)

- ・11/25 建設系 CPD シンポジウムに佐々木理事が出席予定
- ・11/26 JABEE20 周年記念シンポジウムに佐々木理事・天野理事が出席予定

9. ジオパーク支援委員会 (平田)

- ・10月3日に第37回日本ジオパーク委員会が開催され、審査結果が発表された Mine 秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク国内推薦は見送られたが、日本ジオパークは再認定され、桜島・錦江湾ジオパーク (エリア拡大) の日本ジオパーク新規認定は保留、五島列島の日本ジオパーク新規認定は見送りとなった。

10. 地学オリンピック支援委員会 (星)

特になし

11. 地質災害委員会 (斎藤)

- ・ぼうさいこくたい2019参加報告 (川畑大作, 代理斎藤)
- 今後、毎秋開催地を持ち回りで行うが、学会として積極的にブースを出展するのがよいとの指摘

があった。

12. そのほか

- 学会のホームページの学会組織・委員会の欄にある，組織図については，今期の委員会組織の見直し・状況把握を反映したものに更新する（佐々木副会長担当）。
- IGC2020 インド・デリーで行われる（2-8 March, 2020）の万国地質学会議については，IGC2024（韓国・釜山）への協力体制のためもあるので，会議の実施状況について参加者から情報収集する。また，日本地質学会のプレゼンスも考慮し，IGC には今後積極的に関わっていくべきとの意見が出された。

以上

2019年11月23日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）松田博貴

署名人 執行理事 斎藤 眞